

イノベーションの視点で新接点や 新結合を促すことで、 新たな価値づくりに チャレンジします。

2023年4月、社内に新たに「イノベーション推進室」を設置しました。
今回の特集では、その設立の経緯や役割とともに、
現在地の状況をご報告します。



イノベーション推進室 室長 吉舎 史晃

「イノベーション推進室」設立の経緯

イノベーション推進室が正式にスタートしたのは昨年(2023年)4月ですが、構想は2022年の夏ごろからありました。

その当時、私は研究部門の責任者として働いており、以前から新商品開発や新技術のための情報収集は行っていたのですが、新たな部署として、業務の定義や内容を上手く設定できるかは不安でした。ただ、研究開発には、既存の市場や領域の中で応用していくものと、全く別の切り口で市場に新しい価値を示していくものがあります。今のお客さまや事業をまず大切にし、確実性の高いものをきちんと達成していく土台があって、初めて安心して新たなことに挑戦ができますから、現実的には前者の資源配分や優先順位が高くなります。一方で後者では、まだ具体的に見えて

きていないチャンスやリスクの兆候を見つけるために未知の領域に飛び込んだり、確実性が測りにくい新たな活動を試験的に実施する必要も出てきます。

前者と独立して専門的に活動できることは、それらの促進に効果的な面もありますので、研究開発の仕事の中で、新接点を見つけ新結合を促すようなイノベティブな仕事に特化した専門組織として、イノベーション推進室が発足しました。「イノベーション」とは、革新的・最先端の技術や製品の開発という意味もありますが、「今までにあるものも積極的に使いながら」「さまざまな相手とのコラボレーションを通じて」、新たな視点や価値観を作っていくことを意識しています。

【イノベーション推進室の戦略方針】

イノベティブな切り口

これまで使われていなかったものの利用
これまで使われていなかった用途・市場での利用
バイオマス製品であることでの展開の推進

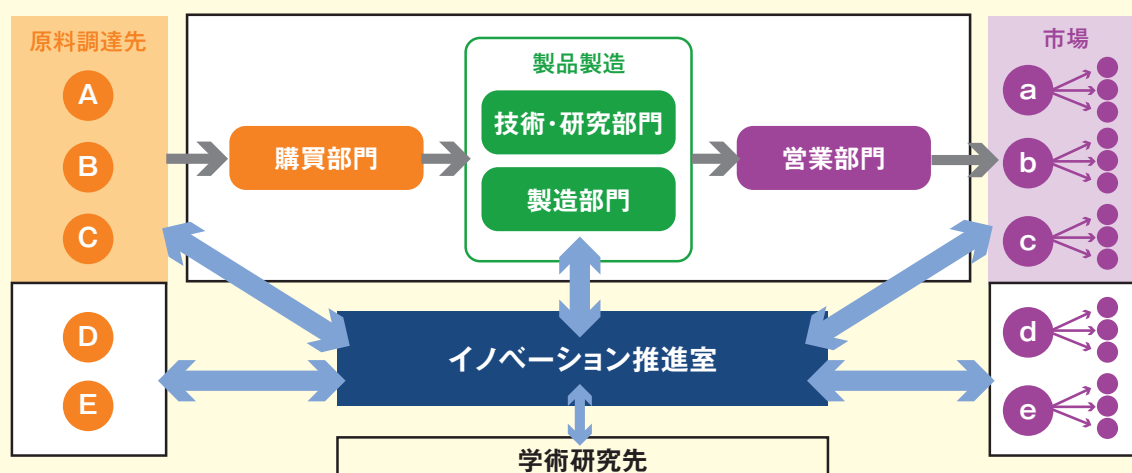
【2024年度活動方針】

以下の事項に貢献できる企画・情報収集・初期検証を行う

- 1 ネイチャーポジティブに貢献するため、新しいサプライチェーンの中での接点を探索し、立ち位置を確立する
- 2 既存含む技術・市場・顧客関係性等の新結合を進め、以下の事項を推進する。

◎これまで使われていなかったものの利用 ◎未開拓の用途・市場での利用促進 ◎バイオマス製品としての展開

【「イノベーション推進室」の役割と立ち位置】



「イノベーション推進室」は、従来のサプライチェーンの枠組みにとらわれず、調達先にも市場にも、学術研究先にもフリーアクセスして、新利用や新結合を推進する。

「イノベーション推進室」のスタッフ構成と日々の活動

設立時の4月は私を含め4名体制でスタートし、8月に技術検証のためのスタッフを1名追加して、現在5名体制で仕事をしています。

従来の研究部門との大きな違いは、これまで見えていなかったり、見えていてもさまざまな制約から手がけるのが難しかった領域にアプローチしたり、新たな調達やお客さま候補との連携を模索することです。昨年5月にはコロナによる移動制限もなくなったことから、現在は国内・海外の新たな研究機関やサプライヤー、お客さま候補とのネットワーク構築のために動きまわっています。

具体的には、今ある製品や開発品を新たな業界のお客さまに提案したり、今使っているテルペン原料以外で我々が使える天然素材がないかを調べたり、テルペンのような天然素材を欲している新たな市場がないかを調査することが主な仕事です。調査や開発的な外部コンタクトだけでなく、製品や開発品の新しい機能や初期技術検証を行い、自部署でも実験や外部委託によるデータ取得を心がけています。また当社や製品をより幅広く認知してもらい、新たな接点を増やす活動として、展示会の出展や執筆・講演等も行っています。

一年間で見てきたことと、これから見えそうなこと

イノベーション推進室は「新たな相手先とのコラボレーションにより未来のビジネスへの道筋を見つける」という難しいテーマの実現を目指しています。そのためには軸が必要で、この一年は「環境」を軸にして収集活動を行ってきました。手探りの状態からはじめ、一年かけてようやく少しずつ進むべき方向性が見えてきたところです。

例えば、現業とは関係ない領域の会社との接点を探るため、昨年アイルランドで開催されたバインケミカルの国際会議に参加しましたが、そこで航空機のサステナブル燃料の可能性を探るために参加していた研究機関やメーカーとの接点を得ることができました。また、当社原料のテルペンは森林や果樹資源由来のもので

すが、国際的に森林資源の活用について関心が高まっていることから、国内外の新たな森林関連企業や団体にアプローチし、さまざまなコラボレーションの可能性が出てきました。さらには、海外企業はクリーンな天然由来の溶媒「グリーンソルベント」への関心も高く、その市場にアプローチするための取り組みも進めています。

一方で、海外でのサステナブルマテリアルやバイオベース材料への関心の高まりはあるのですが、関連規則や仕組みに関しては多岐にわたります。副次的ではありますが、関連機関へのコンタクトによる初期調査と共有も行っており、こういった活動でも社内外に貢献できれば喜ばしく思います。

ヤスハラケミカルと日本の未来のために

先日、カーボンニュートラルを推進するためのGX(グリーントランスフォーメーション)をご研究されている先生とお会いし、中間材メーカーの社会的役割について話す機会がありました。その先生から「中間材メーカーは、川上から川下までサプライチェーン全体を見渡す視野がある。サプライチェーン全体のバリューを上げる上で、中間材メーカーが果たすべき役割は大きい」との言葉をいただきました。

これこそ私たちが目指す方向性で、イノベーション推進室が

果たす新接点や新結合は、ヤスハラケミカルの価値を高めるだけでなく、サプライチェーン全体、ひいては日本のバリューも高めていく可能性があると思います。

これからもイノベーション推進室の果たすべき社会的役割を大切に考え、トライアンドエラーしながら、より幅広い視野で果敢なアプローチを行い積極的にチャレンジしていきたいと考えています。